

# 装飾をひもとく ～日本橋の建築・再発見～

[会期] 2020年9月2日(水) - 2021年2月21日(日)

[会場] 高島屋史料館TOKYO 4階展示室

[監修] 五十嵐太郎 (建築史・建築評論／東北大学大学院教授)



■ 展示風景

江戸時代より経済・文化の中心地として栄えた日本橋は、かつて全く新しい風景を出現させた最先端の地でした。また近年、日本橋は新たな再開発が進む街として注目されています。本展では日本橋高島屋を中心に、日本橋地域の近現代建築を取り上げました。なかでも建築の細部・装飾に焦点をあて、西洋の古典主義が日本橋界隈の建築にどのように導入されているかを検証しました。

## 《展示資料抜粋》

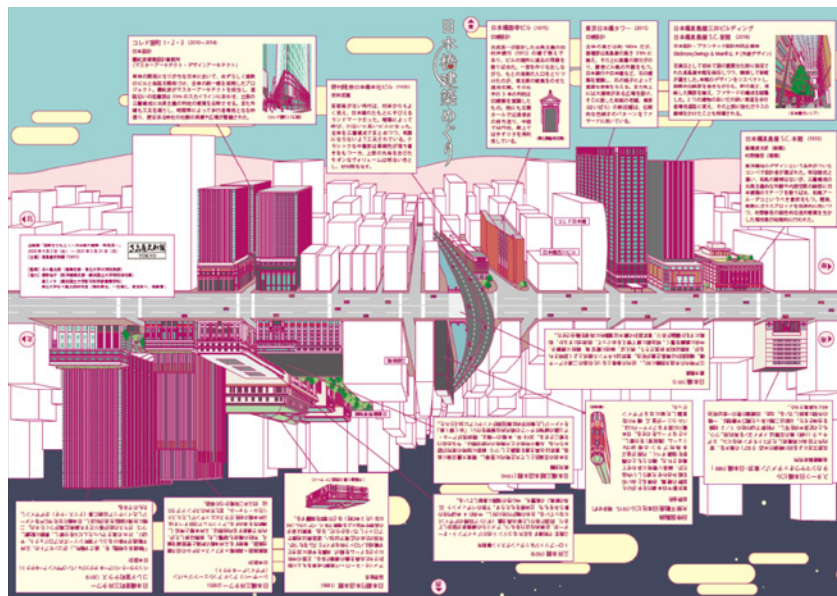


### ■ 展示風景

(正面/旧帝国製麻・大栄不動産旧本社ビル模型、所蔵/大栄不動産株式会社)



※本展は書籍化を望む多くのお客様のお声を受け、青幻舎より『装飾をひもとく』（五十嵐太郎・菅野裕子著、協力：高島屋史料館TOKYO）として書籍化されました。



■ 建築MAP(表は地図と建築案内、裏は細部詳細をイラスト入りで解説。  
本展では、この「日本橋建築巡り建築MAP」を配布しました。)



■ 展示パネルより一部抜粋。本展では約100枚にも及ぶパネルで、  
建築装飾の細部を読み解きました。

## 第1章「様式の受容」 展示パネル一部抜粋

古典主義様式の日本銀行本店本館(1896年)と三井本館(1929年)を中心に、装飾の細部の楽しみ方を紹介しました。

古典主義建築主要オーダーとコリント式柱頭

コリント式

コリント式柱頭

コリント式は、古典主義の3つの主要なオーダーの中で、もっとも装飾性が高く、また柱の太さに対する長さ(高さ)が長く、ほっそりしている。

三井本館のコリント式オーダー

1

三井本館のオーダー

古典主義の3つの主要なオーダーのうち、三井本館ではコリント式オーダーが用いられている。

古典主義建築主要オーダー

コリント式

コリント式柱頭

日本銀行本店本館のオーダー

1

日本銀行本店本館のオーダー (ドリス式とコリント式)

古典主義の3つの主要なオーダーのうち、日本銀行本店本館では、1階にドリス式、2、3階の大オーダー<sup>※</sup>にコリント式が使われている。

※階数の高を異く柱

## 第2章「和風の融合」 展示パネル一部抜粋

和風化したデザインとして、日本橋高島屋本館(1933)を中心に、日本橋三越本店本館、日本橋(1911年)の細部装飾に注目しました。



### 第3章「現代への継承」 展示パネル一部抜粋

「スターツ日本橋ビル」(1989年)、東京日本橋タワー(2015)、  
「コレド室町1・2・3」(2010-2014)など、再開発が進行している日本橋周辺の  
建築装飾についてひもときました。



#### 高島屋を意識したヴォリュームの構成

東京日本橋タワー(2015)  
日建設計

日本橋二丁目地区の再開発で誕生した最新のオフィスビルである。全体の高さは約180mだが、外観は下部においてヴォリュームを分割している。基壇部は高島屋の高さと同じく31mに揃え、抽象化された列柱のような重厚になっており、その上に高層の部分がついているからだ。なお、分割している層のあたりで、免震構造を入れている。また上部は、格調高い日本銀行や日本橋など、石の建築を意識し、石貼りの格子によって重厚な雰囲気を与える。全体としては、ガラスをむき出しにしたツルピカのビルではなく、彫りの深い表情をもつ。



#### 高さ31mのスカイラインを揃える

コレド室町1・2・3(2010-2014)  
日本設計・黒紀彦建築設計事務所(マスター・アーキテクト・デザイナー・アーキテクト)

個別のビルがばらばらにふらふら開発になりがちな日本において、めざらしく複数のビルと街路を関係づける全体の統一感を実現したプロジェクトである。黒紀彦がマスター・アーキテクトを担当し、場所に合わせたデザインを調整したからだ。道路沿いの低層部は、近代の様式建築が当時の高さ制限によって生じた31m(≒100尺)のスカイラインにあわせて分割されている。また立面の構成には古典主義の列柱の感覚が反映された。中央通りからは、コレド室町1とコレド室町3が並んで見えるが、よく観察すると、少しだけ違いがある双子のビルのような。

## 第4章「百貨店の建築展」 展示資料一部抜粋

日本橋高島屋で開催された過去催事や展覧会について、年表と会場模型、図録等で紹介しました。



■ル・コルビュジエ、レジェ、ペリアン三人展 会場模型縮尺：1/30  
制作：東北大学五十嵐太郎研究室(菊地尊也、一色智仁、高橋響)2020年



■日本橋高島屋催事展覧会図録『選擇・傳統・創造 日本芸術との接触』(1941年)



■『ザ・ファミリー・オブ・マン写真展』アルバム(1956年)  
『小原豊雲いけばな展』(1955年)  
『ル・コルビュジエ、レジエ、ペリアン三人展』(1955年)